

広報さやま2月10日号の
さやまの絵本について

【 お 詫 び 】

2月10日号のさやまの絵本（右のとおり）に掲載した「白い蛇の話」の中の「白い蛇と蔵」について、この話を採話しましたときは、寿会のかたを中心に、上奥富の古老20人くらいのかたから聞き書き調査をしました。その折、たくさんのお話を聞きしましたが、この話は、その中の一つとして絵本化したものです。

しかしながら、今回のお話は、

ある特定の人、家を指して物語ったものでは決してありません。話の中で使った「没落してしまつた」という表現で多大なご迷惑をおかけしたかたがたは、没落などという事実はまったくなく、立派に家を継いでいらつしやいます。ここに紙面をお借りして、慎んでお詫び申し上げます。

池原昭治

この度、池原昭治先生のさやまの絵本の「白い蛇と蔵」の掲載にあたり、関係者が存在するよう誤解を与えるとともに、配慮に欠けた表現を用い、読者が事実を誤認するようなこととなりました。多大なご迷惑をお掛けした皆さまには、心からお詫びいたします。

広報課



池原 昭治の

さやまの絵本

70



白い蛇の話

今年には巳年です。市内には蛇に関する伝説がいくつもあります。今回は、三話ほど紹介いたします。

「白い蛇と蔵」

上奥富の梅宮神社のうらあたり、大金持ちの家がありました。蔵がたくさんありまして、蔵の中には昔から白い蛇がすんでおりました。ところがあるとき家のものが蛇にいたずらをしたそうです。その日から蔵の蛇が急にいなくなり、あんなに栄えていた家が、たちまち没落していつてしまったそうです。いままさらながら白い蛇のありがたさをしり、後悔したそうです。

「丸山弁天と白い蛇」

堀兼の新狭山ハイツの丸山にある弁天さまは、昔から銭洗い弁天ともいわれ、たくさんのお参りがあつたそうです。また、お社のうしろに大きなケヤキがあつて、そのほら穴に白い蛇がおつたそうです。毎年、お蚕の時季になりますと、「どうか、今年もねずみを退治して下さいませ」と、農家の人がたくさん願かけにきたそうです。縁日は、お正月の初巳の日になっております。

「オタケ蛇」

水富の笹井のタケが淵には、まっ白で尾の切れた蛇がいたそうです。これを「オタケ蛇」といひまして、この蛇を見たものは、その年運が開けるのだといったそうです。

R80 この広報紙はリサイクル推進のため古紙配合率80%の再生紙を使用しています

お・茶・番・る・ま・ち

SAYAMA CITY
さやま

【狭山市広報】VOL.548

発行日 / 平成13年3月10日(毎月10・25日発行)
発行 / 狭山市
編集 / 狭山市企画総務部広報課
〒350・1380 埼玉県狭山市入間川1・23・5
TEL 042・953・1111(内線7161)
FAX 042・954・6262テレホンガイドさやま ☎0120・460・380
ホームページ http://www.city.sayama.saitama.jp/